

○景観を探る2：「万祝（まいわい）にみる海辺の景色」

講師：安齋信人（千葉県立中央博物館）

2011年5月21日（土）於：千葉県立中央博物館 講堂 時間：13:00～14:00

現在、東北地方から静岡県にいたる太平洋沿岸各地に万祝と呼ばれる極彩色の長バンテンがのこされている。この万祝は大漁の祝いの席で船主や網元から配られ、ハレの日に集団で着られていたものである。江戸時代後期、房総地方で発祥したといわれている。

万祝の様子は、その多くは背中に白鶴とその上に家紋や船印・船名が描かれ、鶴のくわえる吹き流しに製作年代、大漁となった漁場の名前、漁船の名前などが記されている。また、腰には、鶴亀や恵比寿大黒などおめでたく縁起の良い絵柄や網漁や釣り漁など漁の様子などが多く描かれている。特に漁の様子を描く際には、大量の魚の群れが近くにいることを示す海鳥や、漁師が漁のポイントとするため目印（「ヤマアテ」）とする山などの自然景観も描かれ、万祝に大漁を願う漁師の気持ちが込められていることがわかる。

今回の講座では、千葉県をはじめとする太平洋沿岸にのこる万祝を紹介するとともに、万祝に描かれた絵柄を通して房総の海辺の景観を解説する。